

令和7年度 グループ発表の概要について（2班）

2班(1) 菌部祥子さん

三つのうちの一つ目なんですけれども、農業の活性化というところで、やっぱり食べ物が私達の体を作りますし、一番大切な要かなというところで、先ほど1班の方からもありましたが、使われていない農地やリタイアされた方の空いている農地の活用なんですけれども、そういった除草作業などでお金がかかるのであれば、地域住民の方を巻き込んで、自分たちの食べ物は自分たちで作るっていう考えで自然を活用して安心安全な子どもたちの学校給食にも繋がるようなものを作っていけたらというふうに思いました。そういったところで、作ったものを354号線のところに道の駅をつくって販売したり、ふれあい公園のところを活用してマルシェをしたり、そういったところでも公園を活用して活性化に繋がればなということに考えまともりました。

2班(2) 高田麻支さん

私の方からは、子どもの居場所ということで、今後、中学生の部活動がなくなっていく、学校から地域に部活動の管轄が移る形になりますと、どうしても活動する子と活動しなくなる子が出てくると思うんですね。なので、そういう子どもたちの居場所があればいいなと思いました。それと、学校に行けてない、いわゆる不登校児となる子どももおりますので、そういう子どもも含めた子どもの居場所が欲しいなということで提案させていただきました。あとは、理想なんですけれども、農業体験などのいろいろな自然経験をしたり、もの作りだったり健全な活動をし、大人の目の届く居場所が理想かなと思います。子どもだけではなく、大人に対するサポートもあるとありがたいなと思います。

2班(3) 根岸尚之さん

まず、板倉町の活性化ということで、駅前の開発から進めたいというような意見がずいぶん出ました。それともう一つは、354号線の延長、これをぜひ早急にやりたいというような意見が出ております。これをぜひ、議員さんたちにも努力してもらいたい。

駅前をどうしていったら活性化ができるのかということなんですけど、いろいろお話をしまして、日本地図を広げてみますと、板倉町は真ん中にあるんですよね、ちょうど。板倉町のいいところというのは、日帰りで沖縄、北海道に行けると。朝一番に乗って、20時頃には帰ってこられる。これは利点なんです。ぜひ、これを生かしてもらいたい。

それと、板倉町は、どうしてもこの自然を守りながら、バランス良く開発をしていかななくてはならない。そういう中で、やはり一番の問題は、いろいろ話したんですけれども、私の考えになっちゃうんですけれども、活性化を自転車で行きたいと。自転車でですね、実は誘致をしたいということがいくつかありまして。まず、駅前の開いているところ、県の企業局が持ってるんですけれども、ここを駐輪場にする。ただの駐輪場にするのではなくて、そこに温泉やシャワールーム、農産物を販売できるような場所とか、食事ができるような場所というものを併設でつくりたいっていうふうに考えております。東武沿線には駅を利

用して自転車でサイクリングをしたいという人がずいぶん、日本各国、日本近隣、関東エリアなんですけど多いんです。それは、渡良瀬川のサイクリング道路とかありまして、ちょうど私の家の裏なんですけども、土曜、日曜は大変多いです。それと同時に、渡良瀬遊水地を利用したコースを町で整備し、町外の人たちが電車で板倉東洋大駅に降りて、自転車を使ってサイクリングで汗を流し、そこでちょっと休んで、板倉町の農産物を買ってお土産に持っていくという考え方で、まちの活性化につなげていきたいというような意見が出ました。私は、ぜひこれを実現したいというふうに思っておりますので、議員の皆さん、よろしくお願いいたしますと思います。